

# かちゅうらいばらい

令和7年6月発行  
加賀田中学校図書館



つゆ 梅雨の季節になりました。「晴耕雨読」(晴れの日には畑を耕し、雨の日は本を読んで暮らすような生活。意味：都会からはなれ、世の中の出来事を気にせずのんびり暮らすこと)とは行きませんが、天気の悪い日は、読書をどうぞ。リラックスできますよ。

図書係さんが選んでくれた学級文庫は活用していますか？

リクエストも、受け付けています。

6(金)は都合により閉館です。

6月 としよかんカレンダー						2025年 かちゅう	
月	火	水	木	金	土	日	
2	3	4	5	<del>6</del>	7	8	
9	10	11	12	13	14	15	
16	17	18	19	20	21	22	
23	24	25	26	27	28	29	
30							

## 第71回読書感想文コンクール課題図書

### 『スラムに水は流れない』

ヴァルシャ・バジャーシ著, 村上利佳・訳 あすなろ書房  
インド有数の大都会ムンバイ。ミンニと兄サンジャイが暮らすスラムには、ムンバイの人口の40%が住んでいるにも関わらず水は市全体の5%しか供給されていない。水不足が厳しくなる3月、サンジャイが「水マフィア」を目撃してしまい…。蛇口をひねれば、飲み水が出るという世界でも恵まれた環境にいる私たちに、水の大切さを考えさせてくれる一冊です。



### 『わたしは食べるのが下手』天川栄人・著 小峰書店

少食で食べるのが遅い葵は、食事の時間が苦手。とくに給食は…。「小林さんさ、たぶん君、会食恐怖症だわ」無理に油淋鶏(ユウリンチー)を飲みこんで気持ちが悪くなった葵は、保健室でクラスの問題児咲子にそう言われる。実は咲子も、食にかかわるある悩みを抱えていた。そんな二人は、新任のイケメン栄養教諭に焚きつけられ給食改革に乗り出すことになった。わたしたちが望む給食ってどんなのだろうか？



### 『鳥居きみ子 家族とフィールドワークを進めた人類学者』

竹内紘子・著 くもん出版  
夫・龍蔵や家族とともに、まるで探検するようなフィールドワークを進めた鳥居きみ子。人類学のなかでも、昔から伝わる生活・風習・伝説・歌などを調べる民族学を切り開いた。女性は家庭に入るのが望まれていた明治に生まれ、教師(職業婦人)としてモンゴルへ渡ったきみ子。様々な困難に直面しながらも、自分探しの旅を突き進んだ鳥居きみ子の生涯を描く。



読むこと、書くこと、自分を知ること。

第71回 青少年読書感想文 全国コンクール

主催 / 公益社団法人 全国学校図書館協議会・毎日新聞社  
後援 / 文部科学省・こども家庭庁 協賛 / サントリーホールディングス株式会社

自分の心が動く一冊は、どれだろう。